



学校だより

文武両道

第 5 号

豊年祭で輝いた旗頭



盛夏の候、保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に温かいご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

先月開催されました地域の豊年祭において、本校が新調いたしました「旗頭」が、地域の皆さんの歓声の中で見事に輝きを放ちました。

◆新たな魂が宿る「松緑百花」と「善遊善学」

新調された本校の旗頭名は「松緑百花（しりよくびやか）」、そしてそこに刻まれた魂とも言える旗文字は「善遊善学（ぜんゆうぜんがく）」です。

＊「善遊（ぜんゆう）」
…多くの豊かな体験を重ねること

＊「善学（ぜんがく）」
…自らの知を磨き続けること

この言葉には、生徒たちに豊かな経験を通して人間性を深め、同時に学問にも励んでほしいという、まさに「文武両道」を目指す本校の教育理念と、生徒たちの未来への願いが込められています。

◆多くの皆様の「想い」が形に

この素晴らしい旗頭の完成にあたりましては、多くの保護者や地域の皆様の多大なるご尽力と愛情をいただきました。



・旗頭制作

富永 忠明 様

・旗文字揮毫

富永 順子 様

・旗製作

大濱 絵梨 様

をはじめとする保護者の皆様が一つひとつの工程に想いを込め、夜遅くまで作業にあたってくくださったからこそ、これほどまでに立派な旗頭が完成いたしました。

学校を代表し、制作に関わってくださったすべての皆様に心より深く感謝申し上げます。

◆誇りを胸に、豊年祭での力強い躍動

豊年祭に先立って行われた「旗頭贈呈式」では、実際に旗頭を持つ生徒たちも参加いたしました。生徒たちの口からは、制作者の皆様への精いっぱい感謝の言葉が述べ

られ、受け継いだ伝統の重みをしっかりと噛みしめている様子が印象的でした。

そして迎えた当日の豊年祭：秋晴れの空の下、新調されたばかりの「松緑百花」が威風堂々と掲げられました。

生徒たちは、真新しく美しい旗頭を自分たちの手で持てる喜びと誇りに満ちあふれた表情で、力強く祭りを盛り上げてくれました。

また、当日は本校の郷土芸能部の皆さんをはじめ、各字会の生徒たちも参加し、日頃の練習の成果を詰め込んだ「奉納舞踊」を見事に披露いたしました。



地域の方々や観客の皆様から、割れんばかりの拍手喝采を受け、会場が一体となる感動的な瞬間となりました。

今回の豊年祭を通して、生徒たちは地域とのつながりの深さや、多くの方々に支えられていることへの感謝を学ぶことができたと感じております。

新調された旗頭とともに、生徒たちが「善遊善学」の精神でこれからも大きく成長していけるよう、職員一同、より一層教育活動に励んでまいります。

保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございます。

今後とも変わらぬご支援を何卒よろしく願っています。

石垣市立 石垣中学校

校長 宮良 健



人生の主人公として輝くために

石垣市PTA会長・学校長研修会 ～ 美崎 信二 氏の講話に学ぶ ～

先月18日(土)に、市内

の小中学校長とPTA会長が集う交流会にて、石垣島で実業家・地域活動家として活躍されている美崎信二氏の講演を拝聴しました。

その壮絶な半生と、そこから導き出された力強いメッセージは、日々子供たちと向き合う私たち教職員、そして保護者の皆様にとつて、進むべき道を照らす一筋の光のように感じられました。

美崎氏は冒頭、自身の話を「カップラーメンのような話」と謙遜しながらも、「人生に無駄な経験なんて一つもなかった」という力強い言葉で、50年にわたる自身の歩みを振り返られました。

美崎氏の人生は、まさに波瀾万丈です。

150gの未熟児として生まれ、周囲から「もうダメだ」と思われた誕生の瞬間：。

命に関わる大病を患った小学4年生の冬：。

芸能界への夢を抱いて上京するも、挫折とドロドロとした大人たちの世界に翻

弄された青年期：。

そして帰郷後、月給9万円の生活の中で、子供のミルク代すら払えず、団地のゴミ箱から粉ミルクの空き缶を拾って残った粉をかき集めたという、どん底の貧困生活：。

さらに、実家の会社を倒産の危機に追い込んでしまった罪悪感や、近年経験した国税局の調査による絶望感：。

美崎氏は、これまでに「人生が終わった」と思える瞬間を5回も経験してきたと語ります。

しかし、その都度、彼を突き動かしてきたのは、「自分の人生劇場の主役は自分であり、脚本も監督も自分自身が務める」という揺るぎない信念でした。

この姿勢は、本校が掲げる最上位目標「自ら考え判断し、言動できる人」自分らしく、あなたらしく」と深く響き合うものです。

美崎氏は、毎日鏡の中の自分に向かって「今日もカッコいいぞ」と声をかけ、誰よりもまず自分を好きでいる努力を続けているそう

です。

私たちは、つい誰かの評価を気にしたり、世間の「正解」に自分を合わせようとして苦しんだりしがちです。

しかし、美崎氏は、たとえどん底にいても「自分らしく」あることを諦めませんでした。

講演の中で、私が特に印象に残ったのは、ボクシングの道に進んだ甥っ子さんとのエピソードです。

インターハイを前に、過酷な減量で意識が朦朧とする甥っ子を前にして、美崎氏は「諦めるな」と言い続

けてきた大人でありながら、心の中では「体調不良で欠場する」という「もつともらしい言い訳」を必死に考えていたといいます。

しかし、甥っ子さんは最後まで諦めず、体内の唾液さえも出し切り、0.1gの壁を越えてリングに立ちました。

美崎氏は、この経験をを通して「子供を変えるには、まず大人が変わらなければならぬ」と痛感したと語ります。

大人が「諦めない理由」

よりも「言い訳」を先に考えてしまう姿を、子供たちは敏感に感じ取ります。

大人が自らの人生を楽しむ、泥臭くても前向きに挑戦し続ける背中を見せること：。

それこそが、子供たちに「あんな大人になりたい」という希望を与える、何よりの教育なのです。

「負けそうになったらこっとん泣けばいい。背伸びや強がりせず、素直に助けをもらって、また這い上がればいい」…。

美崎氏のこの言葉は、完璧な親、完璧な教師であろうとして肩をそびやかす私たちの心を、優しく解きほぐしてくれます。

失敗も、挫折も、遠回りも、すべては「自分らしい」人生という名作ドラマを彩る大切な一場面に過ぎません。

保護者の皆様、子育てという正解のない航海の中で迷うことも、自信を失うこともあるでしょう。しかし、まずは保護者の皆様自身が、ご自身の人生

の主役として、今日という日を全力で楽しんでほしいと思います。

保護者の皆様が「自分らしく」輝き、笑顔でいるとき、その光に照らされて、子供たちもまた、自らの人生を「自分らしく、あなたらしく」切り拓いていく勇氣を得るのだと確信しています。

美崎氏が30年かけて「スター」と呼ばれる夢を叶えつつあるように、私たちもまた、子供たちと共に、自分だけの人生という劇場を熱く生きていくではありませんか。

その歩みこそが、子供たちの未来を照らす確かな道標となるはずです♪

